

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの理念は、職員の公募で定めている。ホームの理念は「地域との絆を深めて安心安全、人格尊重と思いやりのある介護」である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時に理念を唱和している。また、3ヶ月に1回「基本態度確認改善表」で自己反省を促したり、ミーティングで意識づけを行い理念の実践に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念はリビングホールに掲示しており、家族やホール内で開かれる運営推進会議出席者の地域の方々にも理解してもらえるようにつとめている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの行事には近隣の方へ声掛けをしたり、散歩時には挨拶を心がけて関係作りにつとめている。夜間の消防訓練には近隣にも声掛けを行い参加をお願いしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入している。地域の夏祭りや敬老会にも参加させていただいており、地域住民としての相互理解を深めたいと考えている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて地区住民の認知症予防として脳トレーニング教室を開催し地域貢献を図っている。	○	認知症予防教室を軌道に乗せ健康相談や介護相談ももっと積極的に取り組みたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ミーティングで評価の意義を説明。各職員を評価票作製に参加させグループホームの在り方について再認識を促した。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。外部評価の結果の報告は行っており、ホームの近況、報告や役場からのアドバイスなど交えて双方向的な会議となるように努めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運送推進会議の開催については事前に役場の担当者と打ち合わせを行っており、介護支援課とは入居者の生活指導を行ったり、問い合わせに答えたり、町との連携を大切に協力関係を築いている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護については年間研修予定に取り上げ職員研修は4月に実施している。家族会でも説明を行なった。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止法については職員に周知させており、日常介護のあり方についてはミーティングで毎月話し合いを行い虐待防止に努めている。	○	虐待防止教育システムを導入しながらミーティングや勉強会に役立てたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明は丁寧に行っており、解約時についても家族と充分話し合いを行い、理解、納得を得ている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者とは良好なコミュニケーションを 図り思いを傾聴し、或はその思いを推察して 運営に反映させるようにつとめている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月の朝茶通信で生活状況や健康状態は報告 を行っている。金銭出納の状況も毎月報告を 行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との触れ合いを大切にし家族会は個人面 談、合同面談を行いホーム入り口には御意見 箱を設置して家族の安心を得られるようつと めている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	勤務体制の改正や変更については職員の意向 を確認するようしており、御意見箱の設置 を行なって多様な提案を求め運営するよう にしている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	常に3人体制でシフトが組まれている。急病 や休みの時には職員間で交代勤務を行い、3 人体制を維持している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るよう、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が変わる時には研修期間を設け、人数的 には重複した体制での勤務を行い、利用者へ の影響が内容に配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用選考は本人の能力と介護への熱意に基準を置き採用し、職員の多様性を尊重し、その人の特性が介護業務に生かされ、達成感が持てるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの理念にも人格尊重を第一に掲げ、毎朝唱和を日課として人権教育の徹底を心掛けている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート職員も常勤者と同じようにミーティングに参加し、意見の交換を行っている。職員の年間研修計画を立てており、専門誌の購入など職員育成を心掛けている。	○	外部研修の参加はもとより内部研修では虐待防止教育システムを利用し職員育成に取り組んでいく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のネットワークに参加しており同業者との交流を持つことにより日常業務の円滑化を図っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員休憩室はホームとは少し離れた位置にあり一息つけるようになっている。休憩時間を分割し、午後15分の休憩時間を取る方法を考え、ストレス軽減の工夫を行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員個々の特性を把握し個性に合わせた業務指導を行い各自の向上心の高揚を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の本人の状況は初期アセスメントで確認をし当時の思いを大切にしているが、認知症の進行により状況も変わり、今何を求めているのかを探りながら笑顔の見える信頼関係を目指している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族にグループホーム内の入居者を含めた環境なども充分説明して不安を解消し信頼関係が深まるように努力している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族より自宅での生活パターンを細かく聞き入所時の動きを充分観察した上で、支援の方向を考えている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常に本人の意向を尊重し、押し付けの介護にならないように心掛け、家族と相談しながら段階的に支援計画を見直している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に過ごす日が長くなると自ずと喜怒哀楽が共に味わえるようになり、利用者からいたわりの言葉をかけて貰ったりすることもある。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とはつとめて情報交換を行い家族の思いも大切にしながらホームでの日常も理解を求め、協同で介護が行えるよう努力している。	○	年々進行する認知症の症状を率直に家族に理解を求め職員、家族の一体感を目指したい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、朝茶通信を家族へ送付し健康状態、生活状況の報告をしており、家族の理解も得られて本人・家族・施設との良好な関係が持てるようになったと思っている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のアルバムを持って来て頂き本人と一緒にアルバムを見たり年賀状やプレゼントの礼状を書く手助けなどを行なっている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者の認知レベルが低下し、利用者同士が支え合うことは難しくなっているが、利用者間に生じるトラブルで孤立することがないように見守り対応につとめている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院で退所された方への見舞いに行ったり、その家族の相談相手になったりしている。		

【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】

1. 一人ひとりの把握

35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者の意向を探りながら介護を行なっているが認知症の進行と共に日々把握が難しくなっている。	○	日々、ゆとりある会話が難しくなっているが、職員の認知症への理解を深め多忙の中での触れ合いのあり方など話し合っていきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去に知りえた情報をもとに本人の誇りとする人生を知り、本人の自尊心を大切に話した話題などを心掛けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間生活パターン表の記入を行って生活のリズムの把握につとめており、介護記録も参考にして本人の現状を総合的に理解するよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や職員の意見も参考にし、自立支援と現状維持、穏やかな環境づくりを主体としてプランを立てている。	○	各入居者の担当職員を定め身近で一番理解している担当職員が考える入居者本位の介護計画作成を進めていきたい。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期には6ヶ月の見直しを行なっているが新しい変化が見られる時はその都度医師の意見家族の思い職員の考えなど総合してプランの見直しを行なっている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム日誌、生活パターン表、介護記録で日々の生活状況を把握し情報を共有している。ケアプランチェックで毎日のプラン実施状況を確認し検証している。	○	各種記録が次のステップに役立つような記録の技術をミーティングなどで指導していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族に対しては危険に対する配慮以外は特に規約は設けておらず本人家族の満足に沿えるような柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	幼稚園児の訪問を受けたり地域の催し（夏祭り・敬老会）に参加したり避難訓練には消防署の直接指導も受けたりしている。	○	運営推進会議の協力も得て更に地域の資源の利用をもっと取り入れたいと思っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	町の福祉に働きかけてオムツ使用の補助を受けたり、訪問の理美容サービスを利用したりしている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には包括支援センターより職員の出席があり、地域のサービス事業などについての情報を得ることが出来協働で支援の向上を図っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医から現在の担当医には情報提供がなされ受信の方法については家族と相談の上、現在全員訪問診療を受けており受診に際しては双方の情報を密に交換し適切な医療を受けている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	担当医の紹介で必要時は認知症専門医に受診を行っており、両医師の連携で適切な指示や助言を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	2名の看護師がおり、24時間相談が可能である。日常の健康管理への配慮、医師との連携を図って利用者の健康維持につとめている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には職員が付き添い情報の提供を行っており退院時カンファレンスに参加して退院後の生活に必要な情報を得て介護プランの見直しに役立てている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状の変化については常に家族、医師に情報提供は行っており、対応方針は職員間にも理解を深めるよう話し合いを行なっている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者への対応は職員間で充分話し合い、その情報は家族や医師に理解が得られるよう伝達し、三者で連携して介護の方針を決めている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院目的の住み替えについては医療・介護についての情報提供を行っている。自宅への住み替えについては担当医より新しいかかりつけ医へ情報提供がなされている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人を傷つけないような声掛けや対応については理念にも個人の尊厳を掲げているが不適切な言動が時折見られることがある。	○	認知症についての理解や人格の尊厳について虐待防止教育システムでの心理的虐待に関する行為など具体的な教育を行う。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いを第一と考え無理強いることのないようにしている。触れ合いの中で本人の気持ちを探りながら無理のない支援をするように心掛けている。	○	ホーム内で実施できる希望を引き出すことは難しいが入居者の言葉をヒントに可能なサービスを考え少しでも心満たされる支援をしていきたい。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間、ホームでの過ごし方などいつも本人主体を考えて支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	認知症が軽度の頃の本人の好みを職員が記憶しており、好みの服装を支援するようにつとめている。行きつけの美容院へ家族が連れて行かれることがあるが訪問理美容を利用されることも多い。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症の進行や体力の衰えなどのため食事作りや片付けの手伝いは難しくなっているが稀に配膳の手伝いなどお願いすることがある。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒、煙草を嗜む入居者はいないが飲み物やおやつは好みを聞いて提供することが多い。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	歩行困難者は手引き歩行をして現在全員トイレ歩行を行っている。失禁も見られるが生活パターン表を参考にして時間誘導を行い気持ち良い排泄を心がけている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向第一に入浴を行っている。入浴を拒む人には時間を変更したり、声掛けのタイミングを考えたり機嫌よく入浴できるように心掛けている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起居、気ままに過ごされる方は自由にしていただき見守っている。夜間の睡眠状況、その日の体調を見ながら短時間の昼寝を支援することもある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	認知症の進行や体力の衰えなどでグループでの遊びやレクは難しくなっている。個別に散歩したり会話を試みたりして気晴らしの支援を試みている。	○	限られた職員数で個別に対応していくことは難しいが業務手順の合理化も考え個別に気晴らし支援が出来るよう取り組んでいきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想でトラブル発生があり、小銭の所持にとどめている。近隣に商店がなく、車で外出の時などジュースを買ったりすることもある。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の可能な限り戸外の散歩を行なっている。歩行困難な方は車椅子による散歩を行なっている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族同伴の食事会のための外出や行き着けの美容院への外出など家族の協力を得ている。また、花見など施設の車を利用した外出も行っている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人取次ぎを希望される電話は子機を使って取り次いでいる。誕生日プレゼントで贈られてきた花のお礼状を書くことを勧め発送することもある。	○	家族に入居者のアルバムを持って来て頂いており各自に身近な人の話を聞きながら手紙のやり取りを試みている。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	深夜以外に面会時間の制限はない。訪問者は常に歓迎しており、居室にお茶を運ぶなどゆっくり過ごしていただけるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修に身体拘束をとりあげ理解を得て、拘束のない介護を行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は利用者の安全を考えて施錠をすることもあるが、常時ではない。ホールから庭へは出入りが自由に出来るようにしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室、ホールを見渡せる位置は職員も心得ており、居室のドアには小窓を設けて内部を確認できるようになっている。夜間は定刻に見回りをしている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、ハサミなどは危険物として定位置に保管している。薬品類は常時職員が監視できる場所に保管し、危険防止に取り組んでいる。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急やリスクマネジメントの勉強会は職員ミーティングで行なっている。事故報告書やヒヤリハット記録は作成しており職員研修に役立てている。	○	定期的に入居者各自のリスクの見直しや気づきのチェック表の提出を始めたいと考えている。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応は職員研修の年間行事に取り上げ実施している。	○	定期には勉強会は行っていたが折にふれ再三の訓練を行なっていきたいと考えている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	屋間の避難訓練は消防署参加をお願いして実施したが夜間は近隣の人々にも声掛けして協力を依頼し実施する予定である。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の生活状況は直接或は通信で出来るだけ解り易く家族に伝えるようにしており家族の気持ちも参考にして安全第一に対応につとめている。	○	家族に対して率直な病状説明とそれに伴うリスクについてももう一歩踏み込んだ話し合いがしたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日計測し、異常があれば速やかに責任者へ報告、対処しており、記録を行って情報を共有し、医療につなげている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各人の処方薬説明書はファイルして常に確認可能になっており、薬の変更についても特記し、申し送りを行っている。状況の変化は医師へ情報を提供し、家族には朝茶通信で報告している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材は多様で便秘予防の工夫がなされている。生活パターン表で各人の排泄リズムを把握し、水分補給など心掛け便秘予防に取り組んでいる。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後は口腔ケアを行い、入れ歯の管理や手入れも行っている。週2回訪問歯科診療を受けている。朝・昼食後の口腔ケアは課題がある。	○	朝・昼食後の口腔ケアを徹底させたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各人の食事摂取量、水分摂取量は生活パターン表でチェックし把握しており、食事摂取状況を見ながらバランスを考えて食事介助を行っている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は利用者・職員全員行っている。感染症の流行については随時職員へ呼びかけを行い予防対策を行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンの清掃日、冷蔵庫の整理日を定めており、施行後はサインをして確認している。調理用具は食器乾燥機で温熱処理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は和風の引き戸になっており、家庭的で威圧的ではない。玄関脇にはグループホームを囲む植え込みがあり花や野菜を見渡せて家庭的な雰囲気を感じられる。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングホールは庭に面して採光も良く、庭には季節の花が見られるようになっている。馴染みの音楽を流したり、テレビを見たり、リラクセスできる環境を心掛けている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で椅子を移動して空間作りをしたり、テーブルの座る位置を変えたりして利用者同士の好ましい居場所作りを心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの道具を持ち込んでいる利用者もいるが、新しい物が多い人もいる。家具類の配置などは本人・家族と相談し日常は職員が整頓を心掛けている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は日常心掛けておりオゾン脱臭で臭気対策を行なっている。各部屋に温度計を設置しこまめに温度調節を行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁面は歩行バーが設置されている。床はブロックカーペットを敷いて転倒によるケガを予防している。つかまり棒を備えた福祉トイレは身体機能の自立に役立っている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ入り口には解りやすく表示ポスターを貼っている。各居室には入り口に入居者の写真と名前を掲示し混乱を防いでいる。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ポーチには屋外用の椅子を置いており、季節により外気浴を行ったり、お茶を飲んだりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所（グループホーム朝茶）として力を入れて取り組もうとしていることは、利用者が穏やかにまた健やかに過ごしていただくことはもちろんのこと、出来るだけ残存機能を維持していただくことを考えています。これは軽度認知症の方でも取り組めるプログラムになっており、今後この取り組みを進めていきます。また、運営推進会議を通じて近隣周辺の皆さんにもボランティアとして「脳の健康教室」を開催し実施している。